

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.31 2016.7.6
TEL71-2466

より充実した 公民館活動を実践するために

第10回安曇野市公民館大会

5月15日に豊科公民館ホールで、「ともに学びあう場・ふれあう場」としての公民館を再確認し、公民館活動の発展を推進することを目的に市公民館大会が開催され、関係者をはじめ約350人が参加した。

▼元柏原地区公民館長
中島 清明さん

また、本年度で3回目となる地区公民館報の表彰も行われた。受賞した地区公民館は次のとおり。

▼最優秀賞 豊里(穂高)
▼優秀賞 野沢(三郷)
上堀(堀金)

今回、初めて応募した公民館もあり、今後も多くの公民館に応募

してもらいたい。

表彰式後、島新田地区公民館の腰原正巳さんによる事例発表が行われた。従来ある事業の継続だけでなく、新たな事業も展開し、さまざまな活動に取り組んでいる様子をスクリーンを使い、分かりやすく発表していただいた。



表彰式の様子

継承への思い

講師 長野市安曇里公民館長 宮下 健司 氏



事例発表に引き続き、長野市安曇里公民館長の宮下健司さんを講師に「ムラの生活と伝統文化の継承」という演題で、講演が行われた。

「昭和の高度経済成長期に日本は目覚ましい発展を遂げたが、農村は変貌し、近代化によって得た利便さを代償に失われたものは大きい」と、宮下館長は冒頭で語っていた。

続いて「伝統を守る」ということは「伝えること」ができる後継者(子ども)を育てることであり、伝統文化の継承とは、技や様式だけでなく、精神の継承が大切であるということを強調した。

安曇野市でも、少子高齢化などが進み、伝統文化の継承は困難となりつつある。しかし、子どもたちと祭りや行事などを行い、「いつまでも心に残る楽しいふるさとの思い出」を一緒につくることで、伝統文化は継承されるのではないだろうか。

「安曇野市公民館の理念」の一つに「事業の継続性を大切にしながら、時代に即したものに発展させます。」の一文が掲げられている。これからの公民館活動は、時代の変化を受け入れ、新陳代謝を図りながら、伝統文化の継承をしていくことが地域の発展に大きな役割を持つと思われる。



講演会の様子



花：ヒメジョオン
絵：加々美 豊

里山トレッキング講座

ほたか
5月22日、穂高公民館で「新緑の富士尾山トレッキングと自然観察会」を実施し、35人が参加した。講師の安曇野緑の会の小河深美さんから植物を中心に解説をいただいたきながら、満願寺上方の登山口から富士尾山頂までの約6キロを5時間ほどかけて往復した。

天候にも恵まれ、色鮮やかなヤマツツジの咲く尾根道を、時折木々の合間から見える眼下の安曇野の眺望を楽しみながら歩き、参加者一同新緑の里山の自然を十分満喫した。



廃線敷ウォーキング

あかしな
社会福祉協議会明科支部は、毎年行っている交流会を5月31日に行い、参加者54人で新緑の旧国鉄廃線敷を歩いた。

このコースを、時々歩いているという一組の夫婦は、群を抜いて早々と小日向口を通過し、けやきの森へと歩いていった。

中には、小鳥のさえずりに耳を傾けながら、カメラを構え、ゆっくりと2・4キロを楽しむように歩く人もいた。

けやきの森では、冷えたお茶で喉を潤し、しばらくの交流を深めた。

昼頃、達成感に浸りながら明科総合福祉センター「あいらす」に到着した。



普通救命講習会開く

みさと
三郷公民館は6月4日、公民館役員や希望者を募り、同館講堂で「普通救命講習会」を開いた。

梓川消防署の3人の署員を講師に、34人が参加して3時間間の講習と実技指導を受けた。

「普通救命講習会」は、

堀金子子ども

ドッジボール大会

堀金地域子ども会育成会連絡協議会は6月4日、堀金総合体育館で子どもドッジボール大会を開いた。堀金地域9地区の子ども育成会が、親睦と交流を目的に毎年開催している。



ほりがね

編成は1・2年生の部、3・4年生の部、5・6年生の部に分け、それぞれの年代で男女混成の20人程度のチームを3班つくり対戦した。家族や友達が見守る中、ボールを投げたり受けたたり、逃げ回ったり、歓声を上げ熱中していた。(山東路)

行事の安全な開催と、緊急時の心構えにと、新年度の初めに

行われる。参加者の4割は複数回の受講経験があり、公民館活動への熱意が伺える講習会であった。(山東路)



楽しい菊作り講座

6月4日の午前中に開催された、豊科公民館主催の「楽しい菊作り講座」は、毎年大好評。今年は、大菊3本仕立てに挿し芽から挑戦している。全6回の3回目、挿し芽をした苗を持ち寄って始まった。立派に大きくなった苗もあれば、少々おれている苗もあった。



後半はみんなで手を動かしての作業。赤玉土やみみがらくん炭などを丁寧に混ぜ合わせた培養土を作る。持参した鉢に土を入れて鉢上げ作業。苗の長い根はちよっとちぎってから植え込む。土を固めたら、また土を足して固める。

水やりのじょうろの使い方、これも大事で、苗を傷めないよう丁寧に実技指導が行われた。

とよしな
最後に、光菊花クラブの皆さんが用意してくださった5種類の苗が配布された。いろいろな菊を育てるのは大変だが、秋にきれいに咲くのが楽しみです。

地区公民館だより

新屋地区公民館(豊科)

地区の周辺は、市役所、豊科近代美術館、豊科交流学习センター「きぼう」、豊科北小学校・豊科北中学校、南穂高保育園、豊科勤労者総合スポーツ施設体育館などがあり、また常念岳を仰ぎ見ることのできる自然にも恵まれた住環境の中にある。

新屋地区は、細萱区の中にあり、区内には3つの公民館(新屋・細萱・殿村)がある。戸数は、90戸余りの小さな地域である。館長は、子ども会育成会の会長を兼ねているため、PTA、和楽会(老人クラブ)、祭太鼓保存会、地区総代、民生委員などの多くの皆さんに常に支えていただいている。また行事の後の慰労会にも全吉員が集い、明るい語らいが持たれる。

豊科公民館が参加を呼び掛ける



あんころ餅作り

行事には全て参加し、地区公民館対抗球技大会のソフトボールでは、年配者の活躍で今までに準優勝が3回、3位が3回、ドッジボールでは、小学生の頑張りで優勝経験が1回、秋の運動会には子どもからお年寄りの協力があって、いつも全種目参加。冬のワンバウンドふらばるるバレーボールでは、昨年は小学生と女性2チームの32人が参加して楽しい一日を過ごした。また夏の楽しみみの催し、あづみ野祭りでは、昨年「山車の部」でアイデア賞をいただいた。

地区の主な行事は、5月に隣接している寺所・踏入3地区の合同自転車交通安全教室の後、新入生歓迎会(1年生3人が仲間入り)、7月に天神祭で子どもたちが七夕短冊を作り、細萱洲波神社に飾った。9月には、敬老祝賀会で50人以上の参加者へ、小学生から手作りのメダルのプレゼントやクイズなどで盛り上がり、お年寄りの皆さんに喜んでいただいた。12月には、しめ縄作り講習会、1月の三九郎では午前中に和楽会の指導による餅つき大会でお年寄りと一緒にきねを持ち、あんころ餅やきな粉餅を作る子どもたちの姿に感動した。

公民館活動を通し、地域の活力が付き親睦が図れ、より多くの人と話ができたことは素晴らしいと感じた。(館長 竹内 時彦)

グループ紹介

明科少年野球クラブ(明科)



り、1ヶ月もたてば動きが俊敏になっている。目に見えて大きく変化していくんです」と、母親の丸山千枝さんが語る。

試合が始まると、コーチの父親たちから「足を動かしている」「止まるな」と叱咤激励の声が相次いで飛ぶ。また難しい球を身を持って捕球した捕手には、すかさず賞賛の声が飛ぶ。

右翼方面に大きなフライが上がると、ランニングホームランとした小学6年生の堀内大輝君がホームベースを駆け抜けて、「嬉しかった」とにっこり。この日は、3試合行い1勝2敗。次の試合を目指して頑張ろうとけきが飛ぶ。

連絡先:丸山和彦(090・7241・3810)

明科少年野球クラブは、明北小学校、明南小学校の児童で編成され、現在25人が所属している。40年の歴史を持つ。

本年の監督は堀内朋孝(42)さんで、保護者の代表を丸山和彦(41)さんが務め、責任を持って運営している。

チームは、毎週水曜日の夜、土曜日の午前中、日曜日は1日を練習にあてている。試合が組まれた6月12日は、地元の龍門測運動公園で「塩尻鉢伏クラブ」と練習試合を行った。早くから練習を始め、試合に臨む心構えについて、コーチからアドバイスを受けていた。「二試合ごとに、顔つきが変わ



古きを尋ねて

②1 旧安楽寺跡

(堀金・岩原)



安楽寺大門の松・宝篋印塔

堀金岩原の西山山麓に、旧安楽寺の石垣が現存する。明治4年(1871)の廃仏毀釈で松本藩により壊滅的に破壊された「安楽寺」は、15世紀末、文明年間の開創と伝わる。永承3年(1506)が没年の開山僧、南浦玄清の記録などが根拠とされる。

旧大庄屋・山口家の南に、参道入口にあたる「大門跡」があり大松も健在で、後に建てられた「宝篋印塔」が並んでいる。付近一帯は国営公園の「里山文化ゾーン」が開園され、近隣では、歴史遺産の史跡や時代考証の機運が盛り上がっている。

岩原地区の尾日向洋氏所蔵の「岩原十勝巻」の絵巻に往時の安楽寺の景観が描かれている。安楽寺の裏山に岩原城跡があり、戦国

時代には、岩原城主・堀金氏の庇護を受け、山城の防御の一角をしのばせる高い石垣がある。岩原城の防御施設の展開縄張り図に、安楽寺は全長100m高さ5mの石垣を有するとしている。(豊科郷土博物館紀要)

同地区在住で「岩原自然と文化を守り育てる会」会長の百瀬新治さん(豊科郷土博物館館長)は、「荒廃し忘れられていく史跡を、地域の宝として、先人の生きた証として残し、今に、そして未来に伝えたい」と提案し、賛同した仲間が結集し整備を始めたと言う。

「旧安楽寺跡」と併せて、安楽寺と関わりの深い「岩原城跡」の整備にも目を向けている。標高950mの城山を登りながら、目印に布テープを樹木に縛り、道なき山道に道筋を付けている。安楽寺の敷地の南方に、寺院建立に際し地鎮の神として歓請された「若宮稲荷」がある。(東山路)



安楽寺 石垣

私は一生懸命



社会福祉協議会・三郷支部長 布山 則夫さん (三郷)

社会福祉協議会の市支部長会の副会長で、三郷支部長を務めて4年になる。三郷中学校同窓会長でもあり、後輩の支援に余念がない。三郷子ども会育成会長も歴任してきたが、本業は1級建築士で家業の安曇野設計室代表である。

地域福祉の職務に就いてから、やりがいと共に難しさを痛感している。「社協って何」と街角インタビューしたら正解はどのくらいあるだろうか。「社協という名前が世間に浸透しても、社協に対する認識は、本質を理解するまで成熟していないのではないか」と問いかける。

櫻 初めまして、本年度から穂高地区の公民館報記者を務めさせていただくことになりました。取材を行ったり、文章を編集したりするのは人生で初めての経験です。穂高生まれの穂高育ち。

「社会福祉法に定められた、社会福祉法人で、民間の公益法人であり行政機関ではない」と言っても難解な説明だとは承知している。「行政と社協は福祉の両輪で、共に社会的弱者を守るため、介護などの物質的支援を行い、社協は地域福祉推進業務を担っている」と話す。

隣組長に「社協福祉員」として近所の「見守り」「声かけ」「報告・相談」を依頼しているが、かつて「結い」と言っていた農作業のお互いさまのやりとりを愛称に「結いっこ あづみん」と名付けた。役員が毎年変わっても、連携・協働の精神の育成には、活動を経験する人の数が増える効果は大きいという。

「福祉」を、【ふ】だんの【く】らしの【し】あわせ、と読み説き、地域福祉を「住民が抱える、一つの生活課題を解決すること」と定義付けている。「地域」を【ち】かくの人と【い】きのあった【き】ずな、という言葉遊びで心を現し、「社協の活動を知ってほしい」と「福祉」を語ればどこまでも熱い。

今回ご縁をいただいたことを嬉しく思っています。これから皆さまの所に取材させていただくことになりそうですので、どうぞご協力よろしくお願いいたします。(A・Y)